

第2回橋本道夫記念シンポジウム パネルディスカッション発表④



タイ温室効果ガス管理機構 副局長 ナタリカ・ワユパーブ・ニティポン

本日は私の経験を踏まえ、気候変動に関する能力開発について、とりわけ「タイ温室効果ガス管理機構」(TGO)に設置されている「気候変動国際研修センター」(CITC)での取り組みについてお話しします。このCITCは、TGOが2014年に設立したトレーニングセンターです。ASEAN加盟国の間での気候変動緩和・適応策に関して、ネットワークのためのプラットフォームとしても位置付けられています。

現在提供しているトレーニングの中では、①温室効果ガス排出インベントリー、②温室効果ガスの緩和メカニズム、③気候変動の経済やファイナンス、④適応策に関するものがあります。トレーニングは、中央政府、地方自治体、学術界、民間セクター、メディア等からの参加者を対象としており、2014年から累積で2,300人が受講しています。このうち15%がASEAN加盟国からの参加者ですが、大半はタイからの参加者となっています。

タイ人向けのトレーニングコースの中には気候変動適応策が含まれており、2017年から実施されています。このプログラムを開発するにあたっては、カセサート大学及びチュラーロンコーン大学から協力を頂きました。またこのプログラムの中では、事例研究を重要視しており、地元のコミュニティーにおいて気候変動の影響として何が起きているのか、水資源管理や農林業の資源に対する影響などについて実際の例を多く用いて研修をしています。

2人の研修者を受け入れようと思っております。そのうちの1人は、政策立案に関わる政府機関の方、そしてもう1人は、専門家を対象としたいと思っています。

専門家については、①気候変動の適応政策、長期的な視点とその立案、②国際的な政策と自国の政策との間の関係性、③適応策のコンセプトを地方レベルの計画に落とし込んでいく方法論及び④モニタリング・評価の4つの課題について学んでもらいたいと思っています。

トレーニングの実施のタイミングですが、今のところ、今年9月に、タイのバンコクでの開催を予定しております。その開講に向け、JICAやOECCの専門家の皆さまのご支援をいただきながら準備しています。

このようなトレーニングコースの実施にあたっては、タイの天然資源・環境省から予算が提供されています。

南南協力の取組ですが、TGOとベトナムの天然資源・環境省気候変動局及びベトナム国家大学と協力協定を締結しております。またタイのMONREとラオスのMONREの間でも協力協定があり、こうした協力協定に基づき、トレーニングに関する協力の充実に努めています。

これまで日本の皆様からは多大のご支援を頂き、多くのことを学んできました。今後ともJICAやOECCはじめとして日本の関係者の皆様と協力してアジア地域の気候変動訓練のハブ機関として貢献していきたいと思っています。

Experience on developing a THAI Training course on "Climate Change Adaptation"



一方、ASEAN加盟国からの参加者を対象としたコースでは、現在、気候変動の適応策に関するコースを開発中です。気候変動適応策に係る政策立案・実行の主流化のための実践的な訓練を英語で実施します。このトレーニングの対象としては、各国から